

佐久町誌 歴史編二 近世 目次

口絵

発刊のことば

監修にあたって

例言

佐久町誌刊行会長
佐久町長

高見澤勝之

佐久町誌編纂顧問
東洋大学名誉教授

大野瑞男

序 章 佐久町の近世

佐久町の地理的環境／町域諸村の所領

変遷／佐久郡領分絵図／町域諸村の石

高の変化／近世における歴史的特質

移封と信濃／豊臣大名仙石秀久の登場

／金箔瓦の小諸城／文禄検地／慶長検

地／慶長十五年の佐久一郡逃散／領国

支配

二 近世的農政の成立…………… 35

第一章 領主と村

第一節 近世村落の成立…………… 21

一 仙石氏の登場…………… 21

小田原合戦と依田氏／徳川家康の関東

三 徳川忠長領…………… 41

徳川忠長領の成立過程／甲州系代官の

存在／寛永六年の検地

四 幕府領支配の成立……………51

忠長の失脚／岩波による幕府領支配／

在地手代の存在／寛永十三年の幕府領

検地／村切りと村高の確定／信濃幕府

領の支配へ／中小百姓の要求／川東と

川西の区別／反取法の導入／上海瀬村

の初期年貢／村請制と小物成

第二節 甲府 館林徳川領と幕府領……………67

一 甲府徳川領……………67

徳川綱重と綱豊／甲府徳川領の形成と

陣屋の設置／高野町 前山陣屋の設置

／年貢納入の形態／代官の施政と領民

支配機構／江戸廻米／甲府徳川領の継

続

二 館林徳川領……………82

川東の徳川綱吉領／徳川一門知行地の

時代／領内での施政

三 寛文・延宝の再検地……………86

新田開発と新田村／寛文 延宝検地／

寛文 延宝検地の背景

四 支配と地域……………91

せり駒市の開催／せり駒市の運営／国

絵図の作成／中小百姓の成長／年番名

主制と小百姓の村政参加

第二章 村の成り立ち

第一節 村のしくみと村政……………103

一 村請制の成立……………103

兵農分離と村の立て直し／肝煎納めに

よる村運営／組支配から一村の村請制

へ／世襲から年番 入れ札へ

二 五人組と宗門改め……………123

寛永期の高野町村五人組帳／貞享期の

上海瀬村宗門帳

第二節 村で生活した人々……………132

一 身分差別の社会……………132

文書のなかの村の地位／死と血へのケ

ガレ意識

二 村で生活した人々……………142

寛永期下海瀬村の住民／貞享期上海瀬

村の住民／正徳期高野町村の住民／正

徳期宿岩村の住民／享保期大日向村の

百姓軒数／宝永期田野口領の百姓軒数

第三節 差別された人々……………164

一 いたか筋と門屋 抱屋……………164

寛永期高野町村のいたか筋／遊民に対

する取締りの強化／貞享期下海瀬村の

門屋論争／自立をめざす門屋や抱屋

二 高野町村の牢屋……………176

高野町村への牢屋設置／平原村から移

住の牢守／高野町村の牢屋の管理／高

野町村の牢番の職務

三 牢番の生活……………196

高野町村の牢番とその家族／高野町村

からの牢番の移住／検地帳に登録され

た牢番／耕地を手に入れた牢番

第三章 山と水

第一節 入会林野……………215

一 御巢鷹山の成立……………215

鷹狩 鷹場と御巢鷹山／巢鷹の発見と

保護／御巢鷹山の制度化

二 町域東部の入会山……………219

(一)日向山 秣 刈敷場の確保と日向山／

寛文の争論／日向山の利用

(二)横沢山 争論の契機／争論の開始／争

論の展開／事件の結末

三 町域西部の入会山……………226

(一)上村山 宝永の山論

(二)八郡山 寛永の入会争論と山札／馬札

による山林管理の実態／八郡山の山元

村をめぐる争い／山札の譲り渡し

(三)中畑村入会山 寛保二年の争論

(四)その他 山札の焼失事件

第二節 用水と新田開発……………238

一 領主の開墾政策と農民の努力……………238

急激な耕地開発の進行

二 町域東部の開発と管理……………240

(一)海瀬用水 分村と海瀬用水／新たな堰

の工事／破損と管理

(二)花岡溜池 花岡溜池

(三)田野口用水 平林用水 用水路の開設

と補修／用水路の管理とその実態／平

林用水

(四)茂来原の新田開発 新田開発の計画

(五)千曲川河原 下海瀬村による河原の新

田開発願い

(六)用水争論 争論の前提／争論の開始

展開／天保九年の大乱闘事件／事件の

解決

三 町域西部の開発と管理……………257

川西町域の用水堰開削／用水管理と堰

普請

四 水争い……………263

第四章 領主の政治と財政

第一節 幕府領

- 上村地内堰普請をめぐる争論／原 日
影兩堰の余水争論／中畑村南平開田を
めぐる争論
- 五 切添 切開と新田の開発 …………… 279

- 一 高野町陣屋の成立 …………… 285

高野町陣屋 前山陣屋の併用／佐久地
方の幕府領陣屋

- 二 農政と石代納仕法 …………… 291

慣行としての地払い換金／地払い換金
の制度化と実態／石代値段をめぐる攻
防戦／定免制の導入

- 三 松本藩預所の成立と解消 …………… 300

大名預所の復活／戸田松本藩と大名預

所／支配替えに抵抗する農民と平賀陣
屋／大名預所支配の実態／幕府領復帰
と中之条 御影陣屋の支配

- 四 安永の新田検地 …………… 308

正徳の治と幕府の農政／信濃幕府領の
新田検地／新田開発に対する認識／佐
久地方の安永検地

- 第二節 田野口藩領 …………… 317

- 一 大給松平氏の領政 …………… 317

大給松平氏／陣屋と家臣団／地方支配

と代官／宝永元年の法度書

- 二 貢租と藩財政 …………… 329

検見取から定免へ／苦しい藩財政

- 第三節 旗本知行所 …………… 337

- 一 水野氏と高野町知行所の成立 …………… 337

領主と家臣／陣屋と地方支配

二 貢租と課役 …………… 345

貢租／年貢の内訳／さまざまな負担

第五章 産業の発達と商品流通

第一節 農林業の発達 …………… 355

一 作物の変化と農法 …………… 355

稲の品種／畑の作物／農事暦

二 肥料と農具 …………… 362

刈敷と厩肥え／石灰の使用／農具

三 木材と山稼ぎ …………… 364

木材の利用／林野利用のきまり／山林

の質地／山の産物／松茸の採取／山で

の狩り／木地師

第二節 商業の発達 …………… 376

一 市・せり駒市と商人 …………… 376

高野町村の市／せり駒市／村の商人／

商売をめぐる出入

二 米穀の流通 …………… 384

津出し／佐久の米市場／他国へ売られ

る米穀

三 村の金融 …………… 386

頼母子講 無尺講／無尺の実際／無尺

をめぐる争い／富くじ

四 諸産業と職人 …………… 392

村に住む職人／大工と鍛冶

第六章 交通・運輸の発達

第一節 中山道と助郷 …………… 399

一 中山道と宿駅 …………… 399

中山道と宿駅／役屋敷／問屋場／高札

場／貨客の継ぎ立て／本陣 脇本陣

旅籠屋 茶屋

二 助郷制度の変遷……………403

助郷制度／助郷制度の変遷

三 中山道千曲川往還橋組合……………406

中山道千曲川往還橋組合／橋材木川下

げの紛争

第二節 佐久甲州道と武州道……………410

一 佐久甲州道の成立と運輸……………410

佐久甲州道の成立／佐久甲州道の道

筋／馬継場と継ぎ荷

二 高野町宿……………416

宿場の成立と規模／宿場の運営／駄賃

と継ぎ荷

三 武州道と十石峠 余地峠……………427

武州道の道筋と通行／余地峠道の道筋

と通行／余地の馬宿

第三節 千曲川の利用……………437

一 木材の川下げ……………437

急流千曲川のさ流し／善光寺用材の川

下げ

二 川下げ出入……………448

薪川下げ出入／筏通船の出入／千曲

川往還橋材木川下げ出入／水戸御用材

の川下げ出入

第四節 村の道……………462

一 生活道路と渡川……………462

村の道と生活／渡川

二 信仰の道……………471

寺社参詣の道／巡拝の道

第七章 災害と騒動

第一節 飢饉

一 前中期の飢饉

前期の飢饉／中期の飢饉 凶作

483

二 天明の飢饉

浅間大焼けと天明の飢饉／天明の上信

486

打ちこわし

第二節 水害

一 水害

戊の満水／寛政の水害

492

二 川除普請と川境論

川除普請／海瀬両村と対岸の川境論／

496

平林村 宿岩村川境論

第三節 田野口藩宝暦騒動

一 騒動の経過

505

田野口村の訴願／領下への拡大／小林
孫左衛門の吟味

二 騒動の影響と村方

騒動関係者の仕置／挫折した騒動

514

第八章 村と町的生活

第一節 農民の階層分化

一 本百姓 抱百姓

本百姓と抱百姓／抱抜け

523

二 地主と奉公人

質地と地主／土地所持の集中／奉公人

526

第二節 村の運営

一 村方騒動と村政

下海瀬村の分け組騒動／押印の拒否／

531

印形についての村定／村に伝えられた

531

	文書／高野町村の村定／余地村の村定 ／博奕の禁止	
二	村役人の変化	544
	村役人の選任／余地村の村役人出入／ 年番名主の変化／入札	
三	村の財政と村入用帳	549
	村入用／村役人給／村入用をめぐる	
第三節 家と生活		
一	戸口 家族構成の変化	555
	戸口の変化／安永五年宿岩村の家族／ 婚姻圏	
二	家 家訓と同族団	559
	家意識の高まり／孝行／相続／墓地／ 位牌堂の永続	
三	村人の一年と一生	566
	一年のくらし／日記帳にみる一年／祝	
	儀と不祝儀／人々の移動／離縁	
	衣食住の向上	575
	衣服に対する規制／盗難品などにみる 衣服／食生活への規制／婚礼の食事／ 旅の食事／住まいのようす	
第四節 身分差別の強化		
一	強まる差別意識	587
	享保期にみられる差別意識／改名によ る身分の差別	
二	元文の取締り令	595
	田野口領の元文の取締り令／元文三年 の取締り令の請書／文書にみられる差 別の強化	
三	強化される身分差別	605
	安永七年の平林村加条／文化三年の取 締り強化／文政 嘉永の差別強化	

第九章 庶民の信仰と教育文化

四	差別された人々の動向……………	616	五	民間信仰……………	654
	上村の差別された人々／道心として廻			道祖神 庚申塔と馬頭観音／念仏講ほ	
	国巡礼へ／非人とみなされた人々			かの講と信仰／遊行上人の佐久通行	
第二節	信仰のすがた……………	627	第二節	民間医療……………	660
一	神社と祭礼……………	627	一	医薬品と村医師……………	660
	余地諏訪社／諏訪信仰／その他の諏訪			医薬品／村医師	
	社／諏訪社神官友野氏／祭礼興行		二	流行病と民間医療……………	665
二	仏教と民衆……………	637		飢饉と流行病／疱瘡の流行／コロリの	
	佐久町域の曹洞宗寺院／天台 浄土			流行／民間医療／湯治／村役の医療活	
	真言宗の寺院			動	
三	修験道……………	645	第三節	学問の進展……………	671
	修験道／本山修験		一	寺子屋と筆塚……………	671
四	伊勢講ほか代参講……………	649		文書社会のひろがり／寺子屋と私塾／	
	伊勢講と御師／大山講と三峯講 日光			師匠と寺子／寺子屋の学習／筆塚	

二 心学と成章舎……………685

心学の普及と成章舎／心学のおしえ

三 佐久町域の俳人……………688

俳諧のひろがり／刈穂庵雪磨

四 諸芸と新しい文化……………692

武術／書道と美術／新しい文化

第十章 村の変貌

第一節 貧富の差と凶荒対策……………697

一 文政 天保の飢饉……………697

文政 天保の飢饉／訴願と騒動

二 貧富の差の増大と潰れ百姓……………700

地主の成長／小百姓の生活／欠落と潰

れ百姓

三 近世後期の阿部家……………709

阿部家の経済的成長／幕末の阿部家

四 貧農と凶荒 貧救対策……………714

凶作と貧農／凶荒と救貧対策／村の対

策と村定

第二節 小作と離農……………719

一 質地と小作……………719

土地売買と質入／質地の直小作／小作

料

二 出奉公と日雇い……………725

離農と諸稼ぎ／出奉公人／日雇と賃稼

ぎ／家族構成の変化／奉公人／農間稼

ぎ

第十一章 貨幣・商品経済の進展

第一節 商業的農業の発達……………739

一 養蚕業の発達……………739

桑畑の拡大／養蚕経営と養蚕技術／蚕種と繭糸

第二節 諸産業の拡大

一 米の流通拡大

米の流通と市場／地主と仲買人／米価

と諸物価

二 酒造業

酒造仲間と統制／酒造の実態

三 鉱山の開発

鉱山の開発／銅山の開発／鉄鉱石の採

掘と製錬／製鉄の実態／硫黄掘り／温

泉稼ぎ／石灰焼き

四 水車稼ぎ

水車稼ぎ／用水堰と水車小屋

五 職人の出稼ぎ

職人の増加

第三節 交通 運輸の変貌

一 助郷制度の変貌

負担に苦しむ助郷村々／宿 助郷出入

／助郷制度の破綻

二 駄賃稼ぎ

飼育馬の減少／駄賃稼ぎ／脇道の紛争

／商荷の付け送り／大石峠の道の存在

／八郡新道切開反対運動

第十二章 動揺する領主支配と農民

第一節 幕政の改革

一 寛政の改革

寛政期の諸政策／代官教諭

二 化政期の改革

信濃国取締役と取締出役／取締役制

三 天保の改革

781 781

748 748

752

759

771

775

791

801 801

806

812

天保期の触／年貢政策と触

第二節 田野口藩領の財政窮乏……………818

一 藩財政の立て直しと用達制度……………818

寛政の財政改革／用達と藩財政／仕送り人制度

り人制度

二 文化の財政改革と無尽……………825

文化の財政改革／殿様無尽と村々

三 藩財政の逼迫……………829

郷借の行きづまり／文政期以降の藩財政

政／藩財政の破綻

第三節 農民のたたかい……………837

一 田野口藩投訴騒動……………837

投訴の経過／訴人の追及／代官前嶋発

多

二 後期の騒動……………844

佐久地方の化政期の騒動／天保八年宿

岩村の騒動／慶応の上州からの騒動

第十三章 開国と維新への動き

第一節 政局の破綻……………851

一 開国と攘夷……………851

ペリーの来航／条約締結と海防

二 政局の転換……………855

和宮降嫁と中山道通行／宿場や助郷の

対応／通行と継ぎ立ての様相／町域村

々の動向／水戸天狗党の佐久通過

第二節 支配体制の解体……………874

一 幕府の兵賦令と農民……………874

郡中取締体制／兵賦令と農兵／御影役

所の施政

二	大給乗謨と龍岡五稜郭……………	881	四	民衆の抵抗と世直し状況……………	923
	大給乗謨／龍岡五稜郭の築造／藩財政 と農民の負担……………			農民対策と抵抗への動き／助郷回避／ 世直し一揆と佐久諸藩／西牧騒動とそ の余波……………	
三	田野口藩の軍制改革……………	895	五	維新への動き……………	934
	農兵組織と非常手当足輕組／フランス 式軍制改革と非常先手組……………			幕末の佐久……………	
第三節 経済変動と世直し……………					
一	商業 諸産業の進展……………	903	引用	参考文献一覧……………	941
	新しい産業の導入／養蚕の普及と桑不 足／変動する酒造業の動向／農産物の 商品化／蚕種業の盛行……………		協力機関	史料所蔵者 資料調査員……………	944
二	繭糸業と貿易……………	912	佐久町誌刊行会……………	……………	946
	繭糸業と貿易／生糸 蚕種の輸出……………		執筆者および分担項目……………	……………	948
三	諸物価の高騰と庶民生活……………	916	あとがき……………	……………	950
	米価の高騰と庶民生活／地主の土地集 積と農民生活……………				